

新副部長紹介



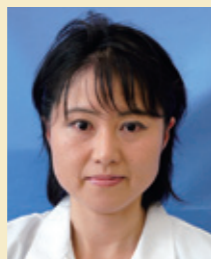
呼吸器科副部長
菅野 貴世史

卒業年次／平成10年
専門／呼吸器内科
趣味／読書、音楽鑑賞



循環器科副部長
坪川 俊成

卒業年次／平成14年
専門／循環器一般
資格／日本内科学会認定
医、日本循環器学会専門
医



消化器科副部長
里見 聡子

卒業年次／平成10年
専門／消化器一般
資格／日本内科学会認定医、日本
消化器学会専門医、日本消化器
内視鏡学会専門医、日本肝臓学会
肝臓専門医 趣味／ピアノ



腎臓・泌尿器科副部長
山内 寛喜

卒業年次／平成15年
資格／日本泌尿器科学会
専門医

地域医療連携課 新スタッフ 紹介



こんどう
近藤 ひろみ

4月1日付で医事サービス課より
異動になりました。まだまだ勉
強不足ではありますが、一日一
日を大切にして頑張っていきます
ので、宜しくお願いいたします。

行事予定

■イブニングセミナーのご案内

日 時	演 者	演 題
5月29日(水) [19:30~]	内科部長 中野雅子	高齢者の糖尿病治療

■病診連携医会のご案内

日 時	会 場	内 容
7月11日(木) [18:45~役員会 19:15~懇親会]	ユアーズホテルフクイ 福井市中央1丁目4-8	決定次第、案内いたします。

腎・泌尿器学術講演会のご案内

日 時	内 容
5月31日(金) [19:00~21:40]	①話題提供／『小児夜尿症プライマリーケアについて』 小児科副部長 森 夕起子
会 場	②特別講演／『心血管イベント抑制のためのCKD治療戦略』 小倉記念病院 循環器科内科部長 横井 宏佳先生
ホテルフジタ福井 福井市大手3-12-20	20:40~21:40 意見交換会

地域医療連携課

受付時間／平日 8:00~18:30
土曜 8:30~12:30
TEL 0776-36-4110 (直通)
FAX 0776-36-0240 (専用)

福井赤十字病院

<http://www.fukui-med.jrc.or.jp>
e-mail renkei@fukui-med.jrc.or.jp

連携通信第46号発行
平成25年4月
福井赤十字病院



Partner

Japanese Red Cross Fukui Hospital

福井赤十字病院連携通信

パートナー vol.046

平成25年4月発行



当院のボランティアさんの作品

Topics トピックス

いよいよ4月より本格稼働! 新3.0テスラMRI (Discovery MR 750W 3.0T) について

今回、新たに導入した最新鋭MRI装置は、全国的に見ても大学病院を中心に数台しか稼働していないGEヘルスケア・ジャパン社の高性能装置です。それを北陸で初めて、当院が稼働させることになりました。
新MRI装置の優れている点は以下の通りです。多くの特徴を備えた新3T・MRI装置は、患者さんに優しく高性能を発揮しつづ、地域医療に大きく貢献することが期待されています。

新MRI装置新3.0テスラMRI(Discovery MR 750W 3.0T)の特徴

- ① 開口径70cmのワイドボアにより、検査時の快適性が向上。
これまでの口径は60cmが標準サイズでしたが、CTと同様のワイド口径70cmを採用することで、狭い空間からの圧迫感がなくなりました。
- ② 検査の選択肢増加で、負担を軽減。
1.5テスラMRに比して非侵襲的な検査の選択肢が増加(頭部3DASL、非造影MRA等)することにより、患者さんの負担軽減を実現できます。
- ③ 検査時の快適性を追求。
検査寝台の低反発素材の採用や荷重のかかる部位への密度配分の考慮、血流を妨げないための溝など、検査時の快適性を追求した患者さんにやさしい設計になっています。
- ④ 画質をさらに向上。
ワイドボアによる静磁場均一性の低下を防ぎ、このクラス最高の均一性を保てることにより、画質を向上させています。
- ⑤ データ送信間のノイズを軽減。
光デジタル伝送技術により、従来のアナログ方式でデータ伝送間に生じたノイズを光ファイバーによる伝送でカットすることができるので、S/Nが大幅に向上しています。
- ⑥ より精密な画像と解析情報で診断。
診断情報においてはこれまでに得る事のできなかった精密な画像と解析情報が得られるようになり、診断能の向上に大きく寄与します。

福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

当院で行なっている 認知症の診療

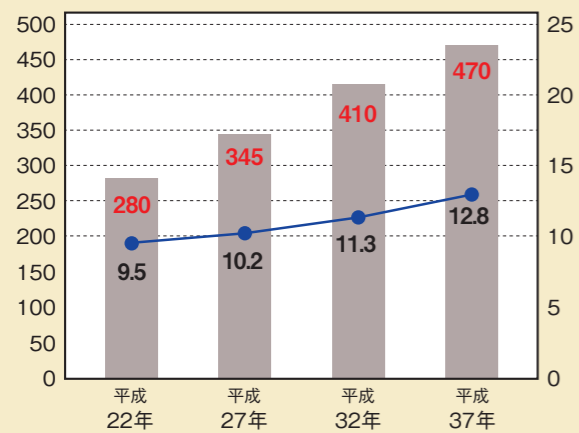


神経内科 部長
高野 誠一郎

高齢化社会となり、認知症患者は年々増加しています。平成27年には65歳以上の高齢者で認知症有病率は10.2%に達し、その数は全国で345万人になると予測されています。(図1)

図1 認知症を有する高齢者の将来推計数
(認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上)

厚生労働省ホームページより



■ 認知症高齢者数(単位:万人)
● 将来推計(高齢者の認知症患者の割合[%])

福井市に当てはめると、総人口26万8千人、65歳以上の高齢者が6万6千人、その10.2%、つまり認知症患者数は約6700人となります。福井県全体では、認知症患者数は約2万人となります。

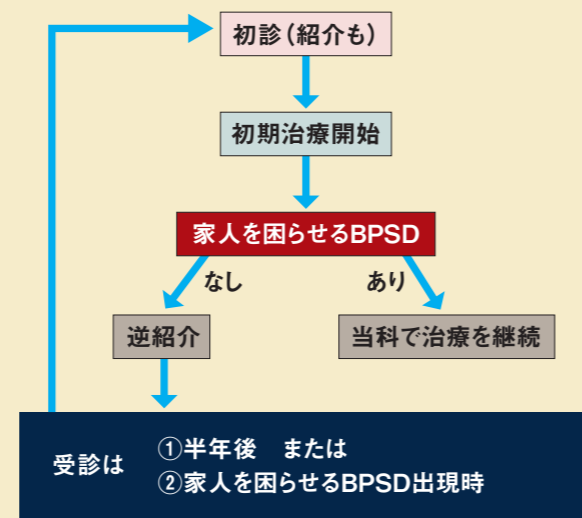
福井県における認知症の診療を担当する医師は、神経内科専門医30人、精神保健指定医68人、うち認知症学会専門医は4人、日本老年精神学会専門医は12人(認知症学会専門医と2人重複)です。またかかりつけ医の先生方が主体の認知症サポート医は22名です。医師の偏在などの要因もあり、多数の認知症患者さんを専

門科の医師や認知症サポート医のみが診療を担当することはとても不可能です。そのため、かかりつけ医の先生方との連携が重要となります。

当院の神経内科では、部長の高野が認知症学会専門医となり、各医師に認知症の診療を指導しています。

現在のところ、かかりつけ医の先生方より紹介をうけ、検査を行い診断を下しています。その上で初期治療方針の決定、家族への介護指導、福祉サービスの開始を行い、初期治療が安定した後に、逆紹介を行なっています。認知症による行動異常・精神障害(BPSD)が問題となる患者さんは、当科での診療を継続しています。図2の様な体制で行なっています。

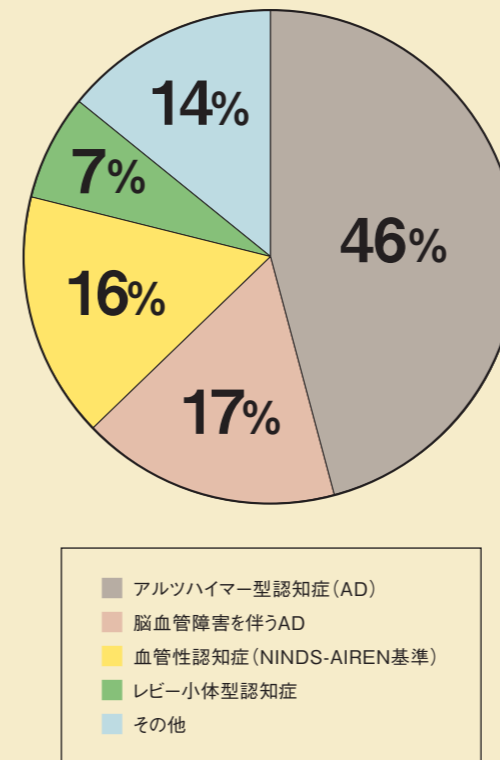
図2 当院神経内科での認知症診療の流れ



BPSD認知症による行動異常・精神障害

認知症を引き起こす疾患は、図3で示すように多数あります。

図3 認知症の原因疾患 割合



血管性認知症: 目黒謙一著:2880:p55:ワールドプランニング

アルツハイマー型認知症が最も多いですが、血管性認知症やレビー小体型認知症も多く、鑑別する必要があります。

図4、5で示すとおり、アルツハイマー型認知症は海馬が萎縮し、側頭葉後部～頭頂葉の脳血流低下が特徴です。治療方法や、介護の指導内容などが異なるため、可能な限り正確に診断する必要があります。

また甲状腺機能低下症や、肝性脳症、慢性硬膜下血腫、正常圧水筒症など頻度は低いですが、治療可能な認知症をひきおこす疾患もあります。正確に鑑別するために頭部MRIやCTなどの形態画像検査、核医学検査や血液検査を行なっています。

図4 アルツハイマー型認知症患者のMRI



図5 アルツハイマー型認知症患者の脳内流シンチ



通院患者さんに認知症が疑われる場合、ご紹介下さいましたら、上述の如く、必要な初期診療をさせていただきますので、ご紹介いただけると幸いです。